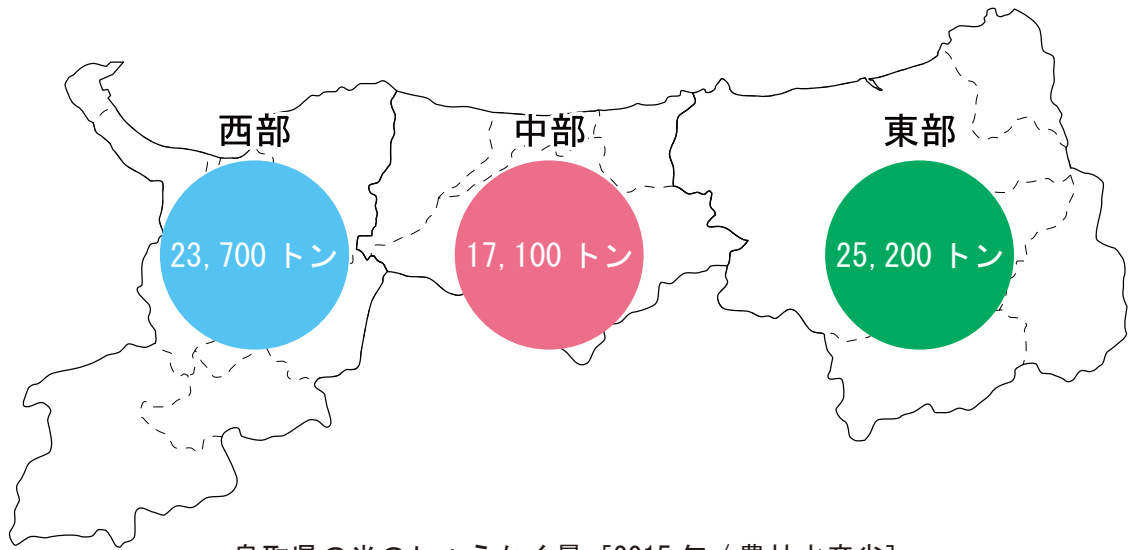


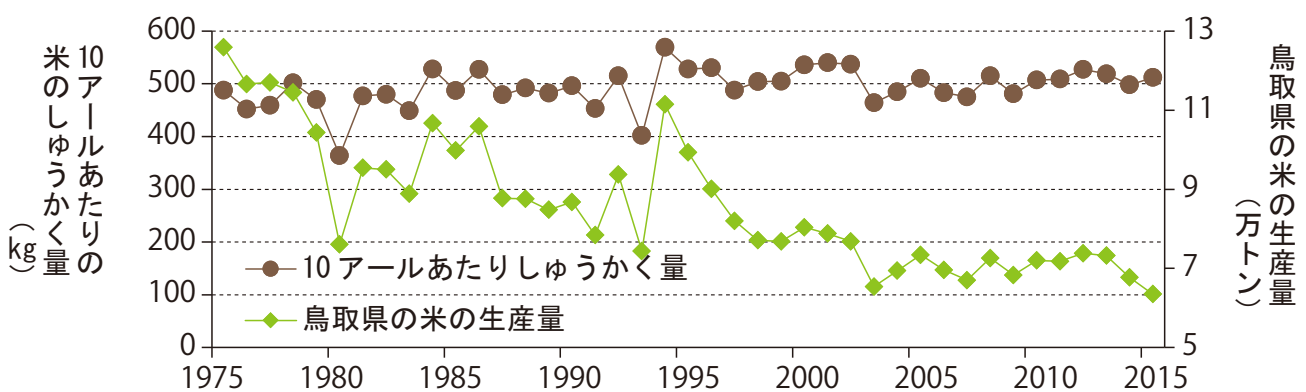
2 米づくりのさかんなところ

①鳥取県の米づくりの特色



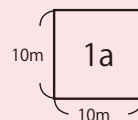
米は、わたしたち日本人の主食です。鳥取県全体で6万6千トンのしゅうかく量があります。鳥取県は人口の少ない県なので、県内で食べきれないお米は、京阪神を中心に出荷されています。

また、地いきにあった品種や肥料のやり方などを工夫して、10アールあたりの米のしゅうかく量がふえるように努力しています。



1 a (アール)

= 100m² (10m × 10m)



米づくりをしている農家の数はへってきていますが、^{おおがた き かい}大型機械を使って、大きぼで米づくりをしている農家はふえてきています。

しかし、全国的に米を食べる量がへったため、^{てんさく}転作（米の代わり^かに田^{だいず}で大豆や野菜などをつくること）などにより、米の生産量をへらしてきています。同じように、鳥取県の米の生産量もへってきています。また、米の^{ゆにゆう}輸入がふえていることや米のねだんが下がったことなどが問題^{もんだい}となり、県内の米づくり農家も、これらの問題に^{しんけん}真剣に取り組み、今後の米づくりについて考えています。

このような中、^{かくち}県内各地で、地いきの特色を出した「ブランド米」がつくられています。^{のうやく}農薬をあまり使わないようにしたり、おいしい品種をつくったりするなど、生産者^{しゃ}がこだわりをもった取り組みです。

鳥取県産のお米をたくさん食べて、県内の米づくり農家さんをおうえんしよう！



鳥取県産きぬむすめ
マスコットキャラクター
きぬむすびちゃん



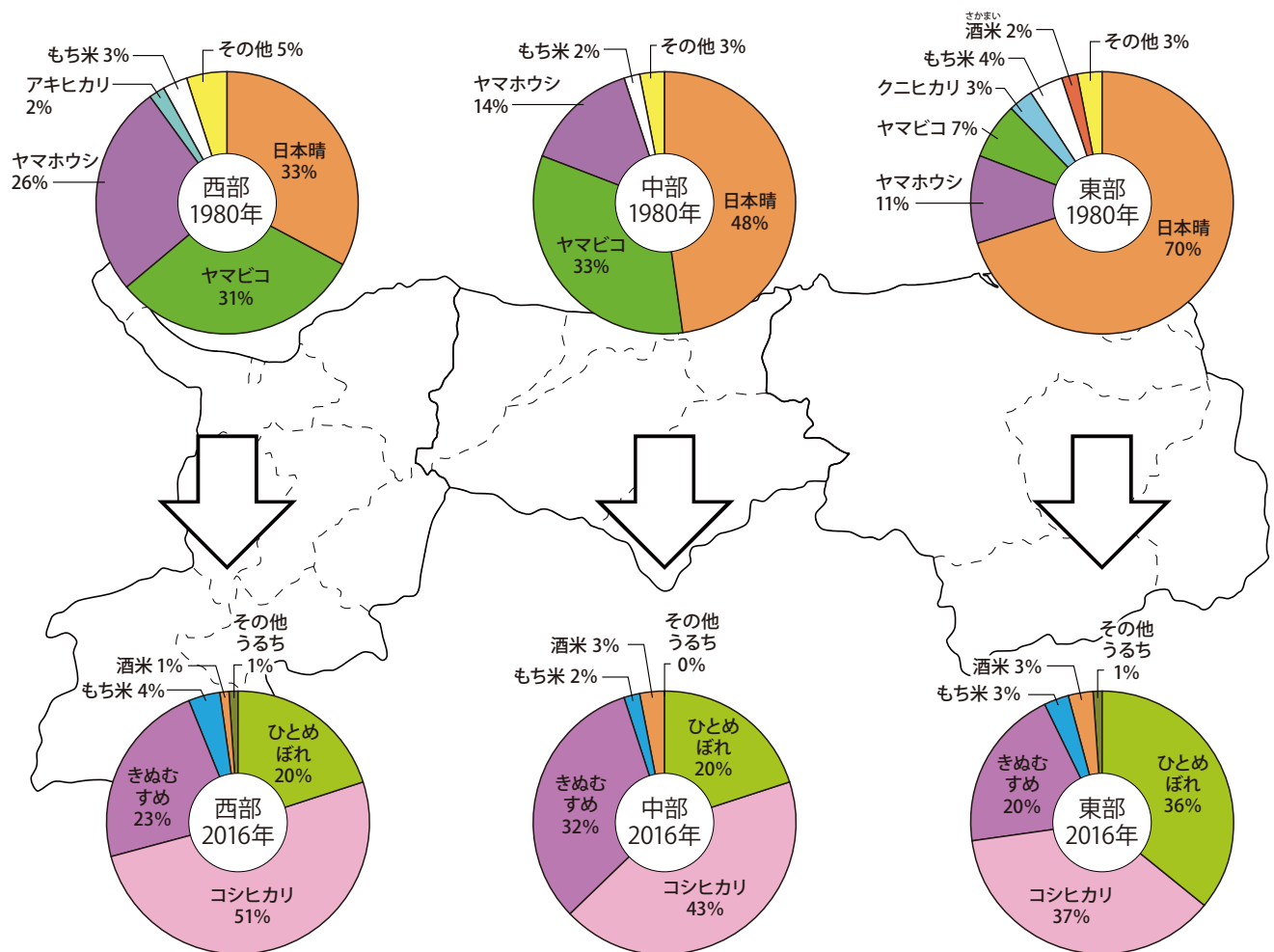
販売されている米ぶくろのデザインの例^{れい}

②クローズアップ！米づくり

つくられる米の品種の変化

鳥取県でつくられる米は、おいしい品種に変わってきました。

1980年（昭和55年）にはほとんどつくられていなかったコシヒカリ（福井県でつくられた品種）が、今では県内で最も多くなっています。また、ひとめぼれ（宮城県でつくられた品種）もコシヒカリの次に多くつくられており、2つの品種のさいばい面積は県内の70%になっています。さらに近年では、ひとめぼれやコシヒカリより実る時期が遅く、暑い夏でも品質が良いきぬむすめ（九州でつくられた品種）の面積が増加しており平成28年には県内さいばい面積の24%になっています。



鳥取県の地いき別に見た米の品種割合 [2016年 / 全農とっとり]

会社をつくって米づくりに取り組んでいる山崎さんと初田さん

山崎さんと初田さんは鳥取市気高町を中心に、約50ヘクタールの水田で大きぼ農業に取り組んでいます。

初めはそれぞれで米づくりに取り組んでいた2人は、もっとたくさんの米をつくりたいと考え、1992年(平成4年)に「みどり農産」という会社をつくりました。

会社をつくってよかったところは、2人で作業をすると、1人でするよりも仕事がずいぶんとはかどるということです。今では4人の社員といっしょに、米のほかに、大豆や白ねぎ、アスパラガスなどもつくっています。



大型機械を使った米のしゅうかく作業



山崎さんの話



地域の人たちに信らいしんされていると感かんじながら仕事をするのは、たいへんやりがいのあることです。会社をつくることで、その信らいがもっと深まり、これまで以上に地域の人たちの役に立てればと思っています。



初田さんの話



米づくりのあとつぎを育そだてることは、わたしたちの大きなせきにんだと感じています。それには、今までのような1人で行う農業ではなくて、会社として行う農業でなければ、時代の流のこれに取り残されてしまいます。みりよくある農業をめざし、一人でも多くのあとつぎがふえてくれればと思っています。